



東義 9回サヨナラ勝ち

野辺西、中盤以降本塁遠く

▽2回戦（はるか夢）
野辺地西
0003
0200 1000 0000
東義義塾 0000 0010
（野）村田、細越、木村

（東）佐藤蓮、五十嵐、齊藤
—原田
▽本塁打 芳賀（東）
▽三塁打 小田桐、佐藤宏
古川東▽二塁打 西野野
▽暴投 村田（野）

【評】東義義塾は3—
3の同点で迎えた九回、
2番古川の右翼三塁打で
サヨナラの好機を演出す
ると、4番原田が放った

ゴロが遊撃手のグラブを
すり抜け、古川が生還し
て勝負を制した。投手陣
は継投した五十嵐、齊藤
が四回以降を無失点で切
り抜けた。

野辺地西は三回に3点
を挙げ、中盤以降も得点
圏に走者を置く場面があ
ったが、本塁を踏むこと
ができなかった。

主将・細越「痛恨の一球
○…再三の好機を生か
せず、サヨナラ負けを喫
した野辺地西。同点の七
回から2番手でマウンド
に登り味方の援護を待っ
た主将・細越は、痛恨の
一打を浴び、マウンドで
膝をつきうなだれた。追
いついて、とにかく1点
を取りたいと向かってい
ったが、一本が出なかつ
た。終盤2回の満塁機で
点を取れなかった。主将
としての甘さが出た」と
悔やんだ。

敗戦によって、一球で
勝負が決する悔しさを味
わったチーム。来年の大
会に向けて細越は「一球
に食らいつく精神力を身
につける」と再起を誓っ
た。